

# 周防大島中学校 研修通信

vol.7

## 10月県確認問題の結果より

2学期も残りわずかとなりました。最大11連休の休みに向けて、成績処理や冬休みの準備など、いよいよラストスパートです。生徒たちにとっては、残り2週間が消化期間にならず、冬休みや3学期の学習にうまくつながるように授業を工夫していきましょう。来週には保護者懇談会も実施されます。その際、お時間があれば、保護者への学習状況の報告に、10月県確認問題の結果もあわせてお伝えいただければ幸いです。

10月県確認問題の結果ですが、全国学調の時と同様に領域別平均正答率をまとめてみました。全体的に低調な結果と言えます。中学1・2年全ての教科で19の観点がありますが、県平均を上回ったのは中学1年の図形のみで、残りは全て県平均を下回っています。また、県平均を下回った18観点のうち、県平均より10%以上低い観点が10個あります。1年・2年ともに、現在までの学習内容が未習得の生徒が多いと言えます。

原因は様々に考えられますが、学習のレディネスが整っていないことが大きいのではないかと考えます。小学校の学習内容と中学校で学ぶ内容は切り離されているわけではなく、つながっています。小学校で身につけておくべき土台がしっかりしていないと、中学校の難しい内容は積み上がっていきません。実際に、先週、1年の数学の時間に小学校の算数全範囲を網羅する1問1点・50点満点のテストを行っていただきましたが、1・2組の平均は33点だったそうです。(ちなみに、学力が低いと言われていた昨年度の中学3年生も3年時に実施しており、その時は平均38点でした。)この50問は決して難しいものではなく、基礎を問う問題ばかりです。

周防大島中学校の学力向上の策としては、まず小学校内容の確実な定着が必要だと考えます。国語でも小学校の漢字の問題を宿題として出していますが、全問正解する生徒は多くありません。積み残した部分を確実に補うことで、中学校の内容が「わかる」「できる」ようになるのではないのでしょうか。

江戸時代の寺子屋で行われていた庶民向けの読み・書き・そろばん(計算)の学習は、当時の世界一の識字率につながりました。単純なドリル形式の学習は単調でつまらないように感じるかもしれませんが、必要な訓練とも言えます。一人一台端末や「やまぐちっ子学習プリント」、県教育委員会が作成している各種問題プリントなど、さまざまな学習素材がありますので、それらを活用して生徒たちの基礎をしっかりと磨いていきましょう。

### 【これからの授業における取組】

共通実践：授業UDの視点にもとづいた「わかる」「できる」授業の実施

【今後の授業における各教科の取組】各教科の先生に考えていただきました。(一部抜粋)

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に「書くこと」に関する活動を取り入れ、書く必然性をもたせる。</li> <li>・受験に向けて漢字テストを毎時間行う。小学校範囲の漢字プリントを行う。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開始5分で小テストを行う。</li> <li>・グループワークを行い、全体の底上げをする。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元に関する小プリントの実施。</li> <li>・単語の定着、まとまった文量の英文を読む。</li> </ul>

